

()マンション 震災対策コミュニティ・タイムライン(震度6弱以上の地震)

班	担当	震度6強地震で予想される被害・状況	主たる任務	事前減災目標	訓練基本内容	訓練内容	発災後1時間以内
統括 情報班	◎理事長 ○副理事長 ○副理事長 ○防災委員長	マンション躯体被害 危険箇所発生 エレベーター停止・閉込め 排水管損傷	全体統括 管理会社との連携 防災拠点との連携 生活再構築 修繕への取り組み	マンション地区防災 計画確立 年間防災活動計画 居城者防災マニュアルの毎年見直し	1 災害対策本部 立ち上げ 2 安否確認集約 3 館内放送 4 全体指揮	災害対策本部開設訓練 館内放送訓練 (誰でもできるように)	〇〇市震度6弱以上 各部立ち上げ 理事・防災班は、自身 後、各階の安否情報を 周辺火災の情報収集 〇火災がある場合、広 園一帯)への避難は指 判断による避難は妨
	情報班 ◎リーダー ○副リーダー ・メンバー1 ・メンバー2	安否確認見過ごし による「震災孤独 死」(を〇に)	安否情報集約 被災情報管理 要援護者情報管理 住民への情報伝達	安否確認表の準備 住民防災情報の集約 個人情報に留意) エレベーター停止掲示 生活規則 (汚物・ゴミなど) 事前に作成しておく	1 トランシーバー で安否確認集約 2 ラジオ等で災 害情報収集 3 災害への対応 情報掲示	16:30 集会室集 合 ヘルメット等装着訓 練 各班訓練用具展開	最上階に人員と機材 を上げ、上から安否 確認をして本部、対 応班に連絡
救出 消火 救護班	◎リーダー ○副リーダー ・メンバー1 ・メンバー2	家具転倒要救出 部屋閉込め 震災孤独死(を〇 に) エレベーター閉込 め 室内での火災 (停電でも数時間 は火災報知器鳴 動) 病院搬送遅れに よる未治療死(を 〇に)	【救出・消火関連】 初期消火 救出活動 近隣救出活動 要援護者移動支援	家具固定推進 (ポスター等)	1 初期消火訓練 2 救出機材展示 3 救出訓練 4 搬送訓練 (担 架・車いす等) 5 家具固定呼びか け	16:45 館内放送訓 練 16:50 各担当階 東エレベーター前 集合	非常階段を下りなが ら館内被害状況確認 エレベーター確認・停 止なら業者に連絡
			【救護関連】 応急手当て 市民トリアージ 負傷者搬送手配 要援護者ケア	軽症者は各家庭で手 当てできるように応急 セットの備蓄呼びか け	1 応急手当て訓練 2 AED訓練 3 搬送病院の説明 4 搬送方法の説明	17:00 地震発生 放送 17:00 出てきた 人に声かけ、集 まってもらう。 説明	火災発生なら、119 番通報し、近隣、階 上避難誘導別階から 消火器を持参して対 応 応急手当て 心肺停止ならばAED

生活物資班 (初期は救護支援)	◎リーダー ○副リーダー ・メンバー1 ・メンバー2	停電 断水 トイレ不可 高層階孤立	(ライフライン関連) トイレ対策 水対策 ゴミ対策 電源対策	エレベーター非常時 セット管理 水、食料、トイレパッ ク備蓄の呼びかけ (最低三日分)	1 トイレパックの実 演・説明 2 地下受水槽水質 検査(塩素濃度あれ ば飲料可)と水組み 上げ訓練	トランシーバーで情 報伝達訓練 集会室で安否情報 集約(安藤・理事 長)	エレベーター閉込めな け、非常セットの使用 (停電なら)夜間発電機 共用廊下照明 緊急対応 AED 応急 病院搬送
		食糧不足 防災拠点からの 物資運搬	【食料・物資関連】 物資対策 避難所到着物資対 策 物資の分配対応 要援護者物資支援	マンションとして食糧備 蓄は行わないこと、個人 備蓄、循環備蓄の呼び かけ ローリングストックを呼び かけ	1 集会室の備品展示・ 説明 2 災害時の食事の工 夫訓練 ビニール袋調 理など 参加者体験訓練	17:30 集会室等 にて技能体験訓練 17:50副理事長 説明・理事長講評	電気、水、ガス、下水 でも、余震が危険なら 等で立入禁止処置
全居住者		家具転倒下敷き 食器・ガラス等 での負傷 脱出不能 火災 トイレ使用不能 電気	自身・家族の安全確保 初期消火・救出活動 可能な方は館内の支援 ボランティア	家具固定 備蓄 水一人一日4ℓ ×7日分(最低) 食糧備蓄(理事会は 備蓄しません) 応急手当て対策 防災情報への協力	安否確認訓練への 参加 訓練に極力参加	共用廊下に出て、 近隣の安否確認	初期微動・緊急地震 速報で安全スペース へ家族・ペットの安全 確保
					技能訓練に参加	技能訓練に参加	出火防止 近隣(同じ階)の安否 確認 火災・負傷・要救出 の場合、災害対策本 部に知らせ、協力
管理会社・管理人		管理人勤務中の発災 勤務時間外の発災	居住者の安全確保補助 エレベーター閉込め対 応 早期復旧対応	人命救助支援 迅速な復旧	視察して支援(フロント)	訓練実施支援・参加	館内放送等支援 エレベーター閉込め確認 危険箇所確認
連合町内会・地域防災拠点		避難者想定外 場所取り合い 感染症拡大	避難所開設と運営 地区の防災センター機 能	耐震化・家具固定推進 在宅避難・備蓄の啓発 学校職員との開設範 囲、鍵の協定	避難所開設訓練 感染症対策訓練 ゾーニング訓練	地域防災拠点訓練	各自治解答での安否確 認・初期消火

(年 月現在)

〇〇マンション管理組合理事会・自治会

原案:未来防災NET 防災士 鷲山龍太郎

3時間以内	当日夜まで	第二日目まで	三日目まで	十日後まで	三週間まで	三ヶ月まで
観測で、災害対策本部と家族の安全確保を集めて集会室へ。 区域避難場所(〇〇公園)を示さない。(個人の都合がない。)	対策本部にて情報集約翌朝までの対応方針決定 居住不可能世帯は、防災拠点受け入れを要請 トイレ対策指示徹底「確認できるまでトイレパックを使用し、BOS袋で	当面の対応方針確立 管理会社と連絡を取り合い、支援要請	防災拠点に支援物資の直接配送を依頼 不可なら、リヤカー等で	中期的対応方針確立 区分所有者への連絡体制を確立	罹災証明、地震保険の対応方針確立 応急修理制度(住める場合)「民間賃貸借り上げ制度(住めない場合)の活用	マンション修繕計画のための「復旧委員会」開催 「復旧総会」に向けて計画
ネット、テレビ、ラジオ等による防災情報収集 見取り図で、安否情報集約 通電なら、館内放送で情報共有	病院・診療所開設の情報収集・伝達 住民の被災状況、避難情報集約 通電なら館内放送で情報共有	停電なら掲示板、口コミで伝達、 エレベーター、水、物資、トイレ等の情報確認・伝達 部屋の被災状況、住民避難状況についての情報収集	住民の安否情報整理 汚物や生ゴミ等の取り扱いを、掲示板表示、ドアポストに投函 通電なら、館内放送で情報共有に努める			
館内見取り図を持って安否確認情報収集 ヘルメット(ライト付き)、バール、ハンマー等で救出活動 閉込め・火災確認すれば、隣家からバルコニーに進み確認	危険世帯は防災拠点へ誘導 禁止事項の書面をドアポストに投函。	家具転倒、ガラス散乱など支援が必要な世帯に、館内ボランティアを募って対応 火事場泥棒対策				
中等症者以上の病院搬送手配 2時間以上家具に挟まれた人は、クラッシュ症候群を疑い。拠点病院搬送。	中等症以上、医療を要する人の病院搬送 居住困難者の情報収集 要支援で居住困難なら避難所に誘導、特別避難所搬送相談	要援護者の把握、共助、支援体制				

<p>ら、業者連絡、声が呼びかけ</p> <p>幾起動・投光器で館内</p> <p>手当て 負傷者搬送</p>	<p>排水管点検・使用の可否を掲示・伝達</p> <p>集会室トイレ便座にビニル袋をかけ、トイレパック用意</p>	<p>地下水タンクからの給水体制(塩素濃度測定し、塩素あれば、飲料水可。塩素0なら生活用水へ)</p> <p>トイレ使用不可ならトイレパック配布?</p> <p>トイレパック・BOS袋の使用よびかけ配付</p>	<p>マンション受水槽の塩素0なら、防災拠点からの水供給体制構築。</p>	<p>トイレゴミ出しルールを徹底</p>	<p>応急トイレは十分か?</p>	<p>ライフラインの復旧状況に応じた対応</p>
<p>状況点検通電してい</p> <p>危険箇所は虎ロープ</p>	<p>発電機で、エントランスから、廊下を歩ける程度にライティンがう(ガスボンベ循環備蓄)</p>	<p>必要な物資は、地域防災拠点に要請</p>	<p>区の支援物資拠点から物資の直接配送を依頼</p>	<p>個人備蓄ある世態も底をつくので、集会室を拠点に物資を分配できる体制づくり</p>		
<p>ドアにマグネット表示(青=OK 黄色=不明 赤=要救護・検索)</p> <p>通電なら館内放送で同じ会で安否確認</p> <p>可能な人は、二次災害に気をつけて、救出、救護活動に協力</p>	<p>家に住める状況の人→</p> <p>トイレ、水、夜間の照明などの準備を整えて準備。</p>	<p>共助体制に協力して生活メイツのルール遵守</p> <p>要援護者への支援</p>	<p>ライフライン確立までの在宅被災生活確立</p> <p>館内ボランティア</p>	<p>可能な人は、要援護者への水、食糧対策等への館内ボランティア</p>	<p>応急修理制度(住める場合)</p>	<p>区分所有者は、マンションの臨時総会等に参加して、生活再建を検討</p>
<p>家に住めない状況の人→</p> <p>非常持ち出し品、寝具をまとめて防災拠点生活(小学校)準備</p>	<p>メイツの居室の整理・火事場泥棒対策</p> <p>メイツ・防災拠点のルールを遵守し、協力して生活</p>	<p>ライフライン確立、自宅生活可能にする努力。</p> <p>館内ボランティア要請・</p>	<p>「民間賃貸借り上げ制度(住めない場合)の活用</p>			
<p>安否確認支援</p> <p>エレベーター使用停止</p> <p>危険箇所立入禁止処置</p>	<p>勤務時間終了後帰宅</p> <p>電気・水道対策</p> <p>被害報告</p>	<p>復旧湯対策</p> <p>応急修理</p> <p>ゴミ対策</p>	<p>復旧方針確認</p>	<p>中期的対応方針確立</p>	<p>修理見積もり</p>	<p>復旧計画立案支援</p>
<p>震度5強以上で開設</p> <p>役員集合 安全確認の上開設 学校連絡調整者と連携</p>	<p>トイレ開設 発電投光</p> <p>受付(避難者カード)</p> <p>避難者・感染者トリアージ</p> <p>ゾーニング表示 誘導</p>	<p>ゾーニング調整</p> <p>行政・学校職員支援で避難所運営体制確立 各班組織始動</p> <p>区対策本部とのデジタル</p>	<p>家に住めなくなった人の生活継続体制確立</p> <p>受水槽からの水確保</p> <p>衛生体制確立</p>	<p>学校授業再開に向けた避難者スペースの縮小</p>	<p>みなし仮設、災害仮設住宅等への送り出し</p> <p>学校授業再開</p>	<p>行政と復興計画協議</p> <p>復興計画参画</p>